

銅・アルミ

市況見通し

8月

銅

6月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月比で20・9%減の5

万4230トで、18カ月連続のマイナス。前月同様、銅線を除き14品目中13品目が前年同月実績を下回った。

銅スクラップ景況予想

6月の銅電線出荷量は同2・9%増の5万3700トで、うち国内が同3・1%増、輸出が同80・1%減だった。

銅輸出は、電気銅が同21・6%増の6万4892ト、銅スクラップ(一次問屋)における7月の在庫は、伸銅品の生産減などにより品薄となった。需要面は

7月の在庫は、伸銅品の生産減などにより品薄となった。需要面は

銅輸入は、電気銅が



今月も自動車生産販売の回復から一定の需要は出るが、スマホおよびエアコン需要の回復が遅れているため、需給は低位安定で推移す

ると見ている。

LME銅為替予想

今月は「米・FRB

(連邦準備制度理事會) 利上げ停止後の金融政策」中国景気回復の動向」に左右される。

米のFRB利上げ停止後の金融政策では、7月に0・25%利上げしたため9月は据え置きとの予想も多い。た

8月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8000~9000 ^{F_h}	横ばい
電気銅建値	120~135万円	横ばい
為替(1 ^{F_h})	140~145円 (1カ月間TTM)	

6月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同8・7%減の14万5729トで15カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同10・4%減の8万9076ト、押出類が同5・8%減の5万6653トだった。

6月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同9・0%増の6万4065ト(2カ月連続のプラス)。出

アルミ

だ、FRBは柔軟に対応するとされており、万5940ト(2カ月連続のプラス)だった。輸出はアルミ新地金が同71・1%減の268ト、アルミ二次合金が同34・3%減の1105ト、アルミスクラップが同15・1%減の3万3473ト、アルミ缶が同7・2%増の5489ト。

8月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買	2000~2200 ^{F_h} (現物後場買)	横ばい
スクラップ	プラスマイナス0円 (前月最終価格より)	据え置き

欧米の金融引き締め策に伴い、前月に引き続きLME価格は2100(2200)と前月より100(0)程度下落傾向だった。流通(一次問屋)の在庫は、自動車生産が回復基調にあるが8月の入荷は少ない見通し。需要面は、日本の自動車の生産販売は堅調だが爆発的な需要があるという点でもない。9月以降は需給回復の兆しがあると見ている。

アルミスクラップ景況予想

同24・3%減の9万8926ト、アルミ二次合金が11・3%増の10万2437ト、アルミスクラップが同10・6%減の612ト、アルミ合金スクラップが同5・9%減の7038トだった。